**第２１号**　(2015年春)
編集・発行　千葉市動物公園ボランティア

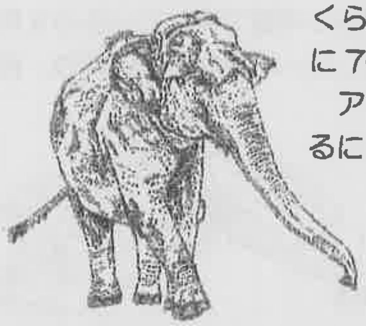
# 千葉市動物公園の ボランティアがえらんだ 見どころ7＋(セブンプラス)

★それぞれの動物がいる場所はウラの地図をごらんください。

## ①たくさん食べるぞう
## ― アジアゾウ ―

アイちゃんは、今年の４月で32歳になるメスのアジアゾウです。とても食いしん坊で、青草、干し草、野菜や果物、パンなどのエサを一日に 100 kg近くも食べます。青い建物の中の部屋に夕飯が準備されていて、どれくらいの量なのか見ることができますよ。

たくさん食べるので、ウンチもたくさん。一個１kgくらいの大きなウンチを一日に70個以上するそうです。



アイちゃんをより近くで見るには、おとなりのキリンのエサの時間がチャンス。頭のいいアイちゃんはちゃんと時間を覚えていて、午後２時ころになるとおすそ分けをもらいに行きます。不定期ですがターゲットトレーニングの様子も見ることができます。公開時には放送でお知らせしますので、お見逃しなく。

## ②立ってるだけで人気者
## ― ハシビロコウ ―

2013年の秋に行われた「動物総選挙」でみごと１位に輝きました。オスが2005年に来園した「じっと」、メスが1989年に来園した「しずか」です。大きなくちばしとするどい眼差し、後頭部の飾り羽が特徴です。動かないことで有名ですが、アフリカの沼地でひっそりと気配を感じさせないようにたたずみ、近づいてくる魚をつかまえるため、動かないことがとても重要なのです。

人なつこい性質で、飼育員さんを見かけると遠くからおじぎをするように頭を振り、クラッタリングといってくちばしをカスタネットのようにカタカタと打ち鳴らして挨拶します。寒さが苦手で冬の間は飼育舎にいることが多いですが、春からは外で、元気にじっとしている姿が見られるでしょう。

## ③国内で見られるのは ここだけ
## ― カオムラサキラングール ―

グレーの体にアゴと頬を包む白いヒゲが特徴的なカオムラサキラングール。本当に顔はむらさき色かな？　皆さんが見てたしかめてくださいね。スリランカの森の奥だけに生息する希少なサルです。木の葉を主食とする「リーフモンキー」で、サルとしてはめずらしくウシのように複数の胃を持ち、胃の中のバクテリアの働きによって食べ物を消化吸収しています。

当園ではサクラ、シラカシ、マテバシイなど園内の豊富な木の葉のほか、葉物野菜とイモ、マメ、リンゴなどを与えていますが、なぜか木の皮が大好きだそうです。

あたたかい日には背中をまっすぐ伸ばし腰かけてひなたぼっこする端正な姿が、なんだかしみじみとして人間に似ています。

## ④山岳地帯の働き者
## ― ラ　マ ―

家畜の原種ゾーンの右端で、建物のかげに隠れるようにひっそり暮らしているのは茶色いラマのラマミです。ちょっと内気で人見知りします。

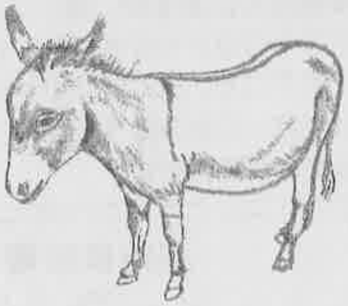
親戚すじのアルパカがテレビCMのせいで有名ですが、ラマもアルパカと同じ南アメリカの大切な家畜。アルパカはヒツジのように長く伸びる毛を人間が利用していますが、ラマは高い山々で荷物を運ぶ仕事をしています。また、アジアやアフリカの砂漠地帯にいるラクダも、ラマとおなじ祖先をもつ動物。顔はみんな似ていますが、ラクダは砂に沈まない幅の広い足先をもっているのに対し、ラマとアルパカは山道を歩きやすい細い足です。それぞれ、生きる環境に適した体に進化しているんですね

### ⑤大きな声と頑丈（がんじょう）なくちばし
## ― ルリコンゴウインコ ―

ルリコンゴウインコは体長が約８０ｃｍ、体重は１kg ほどで南アメリカ大陸の熱帯雨林に生息しています。生息環境である熱帯雨林の減少とペットとして乱獲されたため、今では絶滅危惧種になっています。

鳴き声が大きく１羽が「グワァ」と鳴くとまわりの仲間が「グワァグワァ」と鳴き出し、鳴くことでコミュニケーションをとっています。６０年くらい生きることができ、イギリスのチャーチル元首相が飼っていたメスは 100 歳を超える長寿だったそうです。物まねはあまり上手ではないですが、とても賢く、自分が決めたパートナーとは生涯つよい絆を結ぶそうです。子ども動物園の屋外にいる２羽は尻尾が短い方がオスで長い方がメスです。

### ⑥「若いモンにゃ負けやせん！」
## ― ロ バ ―



ロバは乾燥した地域を中心に世界各地で飼われている家畜です。約6000年前にアフリカノロバの亜種のヌビアノノロバが家畜化したものと考えられています。

子ども動物園には２頭のロバがいて、大きい方がメスのプラム（19才）、小さい方がオスの松五郎（27才)。松五郎は 1988 年からいる子ども動物園の主（ぬし）で、高齢ですがまだまだ元気。とてもおじいちゃんには見えません。元気の秘密は飼育員さんが毎日エサを食べやすいように細かくしたり 寒い日には防寒具を着せたりときめ細かくお世話をしてくれるのと、プラムとの追いかけっこ。しつこく追いかけ過ぎるとプラムにけとばされてしまいますが、プラムも手加減しているのか、全然めげない松五郎です。

★ふだんはジッとしている動物も、食事のときは活発に動きますし、何をどんなふうに食べるのか、意外な発見があるかも。「食事時間のお知らせ」の園内放送がきこえたら、行ってごらんになることをおすすめします。飼育係さんに質問できるチャンスもあります。

★それぞれの動物が見られる場所は下の地図をご覧ください。

### ⑦仲がいいのか わるいのか
## ―アルダブラゾウガメとケヅメリクガメ―

子ども動物園ではアルダブラゾウガメ（オス１、メス２、生息地：インド洋）とケヅメリクガメ（オス２、生息地：中央アフリカ）がコンゴウインコたちといっしょに暮らしています。ゾウガメは巨体（きょたい）を支える足や首の皮膚がゾウに似ています。寿命は長いと言われ、長生きするものでは 100 年以上の記録があります。甲羅（こうら）の模様（もよう）を「年輪」と考えることもできますが、当園のゾウガメの甲羅はてっぺんがすり切れて、厳密（げんみつ）にはそれをかぞえることはできません。

以前、ケヅメリクガメがあお向けで足をバタバタしているのを、別の一頭が腹の甲羅で押しているのを見かけました。助けようとしているのかと思いきや、飼育員さんによるとむしろひっくり返したのだろうとのこと。何を考えているのやら、カメの気持ちはわかりにくいですね。

★ボランティアが毎月第２、第４日曜にご家族で参加できるクイズ形式の動物ガイドをしています。当日園内放送でお知らせしますので、ふるってご参加ください。

園内には約360本のソメイヨシノのほか 早咲き、遅咲きのさまざまなサクラがあります。 4月末まで毎週土曜日午後1:30～2:00に園内の花木を御案内する「桜ガイド」をしています。園内放送でお知らせしますので興味のある方はご参加下さい

第２２号　（2015 年夏）
編集・発行　千葉市動物公園ボランティア

# 千葉市動物公園の ボランティアがえらんだ 見どころ7＋（セブンプラス）

★それぞれの動物がいる場所はウラの地図をごらんください。

## ①日本固有のサル
## ― ホンドザル ―

当園ではこの春、２頭の子ザルが生まれました。お母さんの腹の下にしがみついていることが多いですが、好奇心旺盛で水にさわろうとしたり、岩穴をのぞいたり、動き回るところも見られます。

現在 34 頭（子２頭）で食事タイムは朝 10 時と夕方室内に入ってから、サツマイモ、リンゴ、バナナ、オレンジ、ニンジン、サル用ペレットなどを与え、13 時 30分ごろにおやつとしてヒマワリのタネと小麦を与えます。

開園当時からいる最高齢のサルは、いつも群れの外からみんなを眺めているように見えます。外見はちょっとやせて貧弱ですが元気で、飼育員さんによると気苦労もなく過ごしているから長生きができたのではとのことでした。

## ②するどい目つきの肉食系
## ― ミーアキャット ―

ミーアキャットはアフリカ南部の乾燥したサバンナ、開けた平原、低木地などに生息し、食べ物は昆虫、小動物、サソリなど主に肉食ですが 植物の根を掘りおこして食べることもあります。

当園では草原ゾーンの一角に３頭がいます。朝早くから直立し太陽の方を向いて日光浴をしますが、これは体温を保つために必要な日課。前足、後足ともに指は４本で爪は長くカーブし、巣穴を掘ったりエサを探すのに適しています。穴掘りの時、耳は土が入らないようにふさがります。

当園でのエサは鶏頭、バナナ、蒸イモ、リンゴなど。おやつとしてダチョウの卵のカラにミルワーム（幼虫）を入れて与えると、カラをゆすって落としたり、長い爪で器用に穴から取り出したりして食べます。

## ③あたたかい土地に生息する
## ― ケープペンギン ―

別名「アフリカンペンギン」と呼ばれ、アフリカ大陸の南端ケープタウン周辺だけに生息しています。つがいで暮らし、卵は１個か２個を産み交代で育てます。エサとなる魚の乱獲や船舶の油汚染などで絶滅が心配される種です。

当園にいるのは現在 16 羽、こどものペンギンが２羽別室で育てられています。こどもは自力ではあまりエサを食べないので飼育員さんが世話をします。今は灰色の羽毛でおおわれ、来年の換羽（羽が生え替わる）時期がくると黒白のハッキリした模様が現れます。

プールは井戸水（地下水）で２週間に１度交換します。普段は健康チェックをしようとしてもプールに逃げられると捕まらないので、水のないあいだに、食べる量や病気などを調べます。

## ④モグモグふっくら、草食系
## ― オグロプレーリードッグ ―

「プレーリードッグ」を直訳すると「草原の犬」になりますが、これは仲間に危険を知らせるときの「キャンキャン」という鳴き声がイヌの声に似ているから。でもイヌの仲間ではなくリスの仲間です。身長は２０ｃｍ程度で、両手を器用に使ってイネ科の植物（とくに茎のあたり）を食べます。鋭い爪を使った穴掘りが得意で、北米の草原地帯に穴を掘り群れで生活しています。

当園では3月に生まれた子どものプレーリードッグが見られます。ちょっと食べ過ぎじゃないの？と思うくらいエサの青草をよく食べて、体は丸丸としています。

天気のいい日は親子仲良く屋外にいますので、ぜひ見に行って下さい。

★それぞれの動物が見られる場所は下の地図をご覧ください。

## ⑤リスみたいな サルのなかま
## ― オグロマーモセット ―

オグロマーモセットは南アメリカの森林に棲む小型のサルで、オス・メスとその子どもたちからなる数頭の群れで暮らします。尾と後足が黒く、その他は暗いクリーム色をしています。耳には、ほとんど毛が生えていません。好奇心が旺盛で、鳥がさえずるような声でコミュニケーションします。

当園では全部で7種のマーモセット類を飼育していますが、この仲間は、生まれて間もない子どもをお父さんが背中におぶって子守りをします。これはお母さんの育児の負担を減らすためで、兄姉も育児に参加します。

3月29日にオグロマーモセットの子が2頭、4月22日にクロミミマーモセットの子が1頭生まれました。どちらも親とほぼ同じ容姿ですが、小さいので子どもとわかります。

## ⑥あついあいだはもっぱら昼寝
## ― オオカンガルー ―

オーストラリアの動物、オオカンガルー。その暑さ対策を紹介します。汗をかかないオオカンガルーは、前足をベロベロなめることで体を冷やします。日中の暑いあいだは、日陰でのんびり過ごします。熱くなった土の表面を掘って、冷たいところに横になったりもします。また、オスが睾丸をブラブラさせていることがありますが、これは暑さで精子が死んでしまうのを防ぐため、冷ましているのだそうです。エサを食べる姿や活動している様子を見るなら、朝夕の比較的涼しい時がおすすめです。

現在、ウノの子どもが、おなかのふくろから出て元気に動いている姿が見られます。ほかの何頭かのメスのふくろにも赤ちゃんが入っているようです。顔を見られる日が楽しみですね。

★毎月1回、ボランティアが面白くてためになる「おもためクイズ」をします。子どももおとなも楽しめる動物についてのクイズ。日程は8月2日（日）9月5日（土）10月4日（日）11月1日（日）各日午後1時～3時。場所は園内放送でお知らせします。ぜひどうぞ。

## ⑦オールバックにかくされた秘密
## ― ヒロハシサギ ―

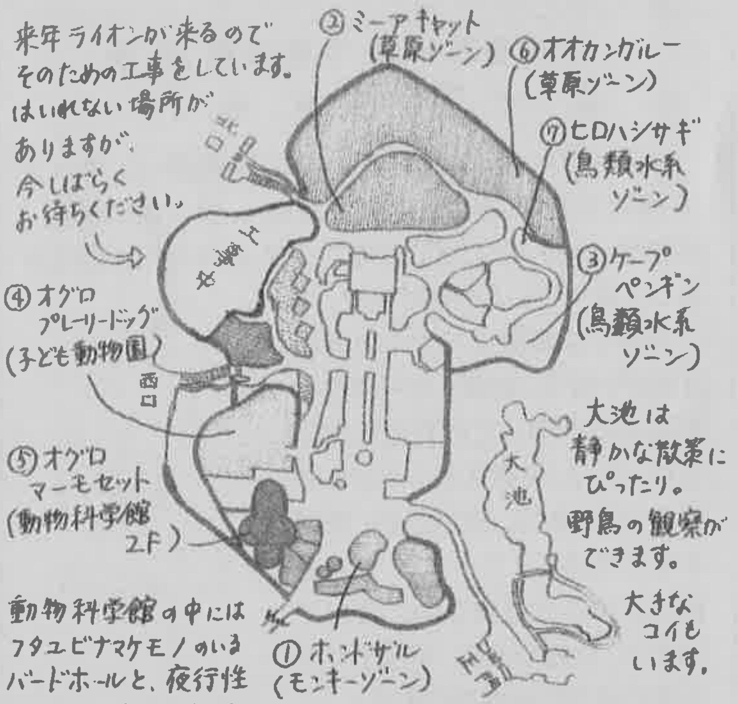
めったに動かないことで人気のハシビロコウのななめ前にいるヒロハシサギ。この鳥も動きません。ハシビロコウより動かないかも。でもその理由がちがいます。ハシビロコウは獲物をねらってじっとしていますが、こちらは夜行性なので昼間はめったに動かないのです。

大きな目をしていますが、食べ物はクチバシの触覚で見つけて捕ります。園でのエサはワカサギなど。人間の髪みたいな頭の黒い冠羽は、怒ったときなどにニワトリのトサカのようにぴんと立つそうです。

メキシコからアルゼンチンにかけての森林の水辺近くで生活しています。

国内では当園の５羽のほか、徳山動物園と宮崎市フェニックス自然動物園だけで見られます。

★ボランティアが毎月第2、第4日曜にご家族で参加できるクイズ形式の動物ガイドをしています。当日園内放送でお知らせしますので、ふるってご参加ください。




動物科学館の中にはフタユビナマケモノのいるバードホールと、夜行性動物、小型サルなどの展示があります。暑いときは冷房のきいた科学館でゆっくりお楽しみください。図書室もあり、絵本の貸出や絵本のおはなし会（毎土曜 11:30～12:00）もしています。

第２３号（2015 年~2016 年冬）
編集・発行　千葉市動物公園ボランティア

# 千葉市動物公園の ボランティアがえらんだ 見どころ７＋ セブンプラス

★それぞれの動物がいる場所はウラの地図をごらんください。

## ①大きな体、おだやかな性格
## ― ニシゴリラ ―

ニシゴリラはアフリカの熱帯雨林にすんでいる希少動物です。日本には 24 頭、その内の３頭が当園のケンタ、モンタ、ローラです。野生からの入手がむずかしい今、世界の動物園が協力してふやす努力をしています。日本では当園のモモコが上野動物園に行き、モモタロウが産まれ、モモタロウは京都市動物園でゲンタロウの父になりました。

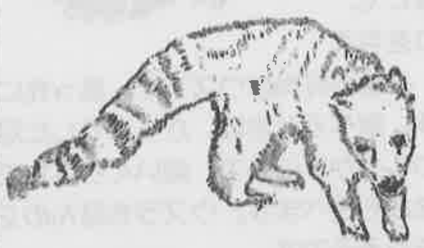
イケメンゴリラが人気ですが、モンタも写真のモデルにたびたび登場するイケメン。キレイなハート形の鼻がチャームポイントです。

寒い日や雨の日は屋内にいることもあり、近くで見るチャンスです。夕方の食事タイムには 野菜、ヨーグルト、ゆで卵、それにピーナッツは器用にむいて食べます。さて何から食べるでしょう？

## ②目を見開いてこっちを見る
## ― キンカジュー ―

メキシコ南部からブラジルにかけての森にすむアライグマの仲間、キンカジュー。夜行性の動物なので、少しの光でも見えるよう、丸い大きな目をしています。長いしっぽを木にまきつけながら枝から枝へ移動し、くだものを食べたり、長い舌を伸ばして花のみつをなめたりします。当園でのエサはバナナ、リンゴ、オレンジ、サツマイモ、キャベツ、キュウリ、パン、ドッグフード。１番先に食べるのはバナナです。体重は２、3kgで、１日に 500ｇくらいのエサを食べるので、体のわりに大食漢ですね。オス２頭とメス２頭が分けて展示されています。オスは兄弟で仲良しですが、メスは母と娘で反発しあっているので、どうしたら平和にくらせるか、飼育係さんは思案中です。

## ③穴もほるし　木にものぼる
## ― アカハナグマ ―



アカハナグマは南アメリカにすむアライグマの仲間で、おもに森林でくらしています。

赤い鼻のクマではなく、茶褐色（アカ）の毛色をしたハナグマという意味。細長い曲がる鼻と強力な前足を使い、しげみや土の中の昆虫やミミズなどを探し出して食べています。また木登りも得意で、木の上のくだものも食べます。

当園の２頭は、千葉市の姉妹都市であるパラグアイのアスンシオン市から友好記念に寄贈されたアカハナグマの子孫で、2004 年 10 月 13 日生まれのサクラ（毛色が濃い）とリリー（毛色が明るく、活発に動く）の姉妹。自然界では、普段メスの群れと子どもたちでくらしますが、出産の際は群れから離れ、木の上で出産、子育てをするそうです。

## ④どこがちがうか　わかる？
## ― アヒルとガチョウ ―

子ども動物園内にある「ヤギとヒツジの広場」の池にアヒルとガチョウがいます。とてもよく似ていますが小さいほうがアヒル、大きいほうがガチョウです。どちらも野生の鳥を人が利用するために家禽化したもので、アヒルはマガモ、ガチョウはガン(雁)が祖先。羽を切って飼っているうちに、空を飛べなくなってしまったそうです。肉や卵は食べるため、羽毛は布団やダウンジャケットなどに使われます。

ガチョウは見知らぬ人が近づくとなわばりを守ろうと大きな声でガァガァ騒ぐため、番犬ならぬ番鳥にもなるのだとか…

午後２時 15 分ごろ、池から自分たちの部屋へ帰る姿はよちよち歩きがかわいくて必見です。

## ⑤好きな食べ物は　とりの肉
## ― イヌワシ ―

日本の山でも見られるイヌワシ。つばさを広げると2mほど、体重は5kg ほどです。当園のイヌワシは2005 年生まれのメスです。

エサは鶏頭、ハツカネズミ、ウズラ、馬肉などで、たまに生きたヒヨコを与えることもあります。一番の好物はウズラで、真っ先に食べ始めるそうです。食べるときは、がっしりした足でエサを文字通りわしづかみにして、鋭いくちばしで細かく引きちぎりながら食べます。ウズラもほんの２分ほどで食べてしまうそうです。

用心深いイヌワシですが、体調管理のために毎週月曜日はエサを抜いているため、おなかをすかせた火曜日の午後２時半～3 時ごろのエサの時間には、展示場で活発にエサを食べる様子が観察できるかもしれません。

## ⑥シカのようだが　シカではない
## ― シタツンガ ―

シマウマやダチョウといっしょに展示されているバンビに似た動物は、シタツンガ（偶蹄目ウシ科）です。オスには角があり、シカとちがって生え替わることはありません。立派な角になるには４年ほどかかります。鳴き声はウシに近い声で「モォー」です。

アフリカの沼地や湿地帯に小さな群れをつくってくらしています。日差しが苦手でアシなどのしげみに隠れているため、現地の人も見ることが少ないようです。

ワニにおそわれることが多いようです。泳ぐこともでき、水かきで体重を分散し沼地も歩けます。瞬発力があり、ジャンプが得意で、助走なしで２メートルくらいジャンプ！　でも持久力はないそうです。国内では他に６園で飼育されています。

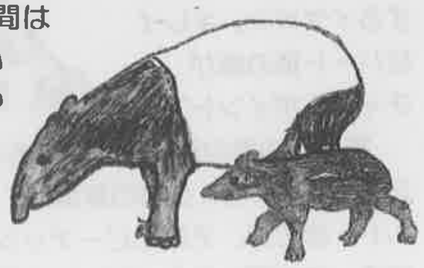
★ボランティアが毎月第2、第4日曜にご家族で参加できるクイズ形式の動物ガイドをしています。当日園内放送でお知らせしますので、ふるってご参加ください。

★それぞれの動物が見られる場所は下の地図をご覧ください。

## ⑦生まれたときは「うり坊模様」
## ― マレーバク ―

野生のマレーバクは、マレー半島やスマトラ島などの水辺のある森に単独でくらし、草や木の葉、くだものなどを食べます。

当園には、ユキミとユメタ（ユキミの６番目の子）とサコの３頭がいて、ユメタとサコは妊活中。妊娠期間は約 400 日、ふつう１回の出産で１頭の子どもが生まれます。生まれたばかりの子どもは7～10kg くらいで、黒い体に白い縞や斑点があり、親とはまったく違う模様です。この模様は、森の中で目立たないためと言われています。生まれて１か月半ごろから徐々に体の色が変わりはじめ、６か月くらいで親と同じ色になります。生後数日で母乳のほかに親と同じようなエサを食べ始めるそうです。



夜行性のため昼間は寝ていることが多いですが、開園直後や午後２時半以降なら起きている姿を見られるかもしれません。

第２４号（2016 年春）
編集・発行　千葉市動物公園ボランティア

# 千葉市動物公園の ボランティアがえらんだ 見どころ７＋（セブンプラス）

★それぞれの動物がいる場所はウラの地図をごらんください。

## ①絶滅をまぬかれた　平原の野牛
## ― アメリカバイソン ―

西口ゲートを上がってすぐ左、黒い大きなかたまりのような２頭が、アメリカバイソンのターバン（オス）とヒート（メス）。ともに 2001 年生まれです。見かけは恐ろしそうですが、性格はとてもおだやか。飼育係さんによくなついています。

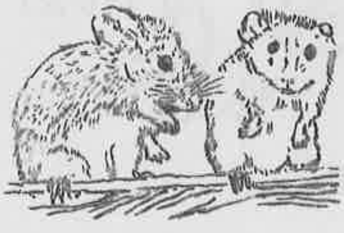
野生ではアメリカ合衆国中西部やカナダ西部の平原や森林で、メスと仔どもは大きな群れをつくり、オスは単独かオスからなる小さな群れをつくって暮らしています。乱獲によって 20 世紀初頭には絶滅寸前にまで数が減りましたが、現在は生息地での保護により、約 36 万頭まで増えています。冬は長毛におおわれますが、夏は背中からお尻にかけて短い毛に変わります。

ディズニー映画「美女と野獣」の野獣のモデルになりました。

## ②日本にいる一番小さなネズミ
## ― カヤネズミ ―

野生のカヤネズミは、ススキやヨシなどのイネ科植物が生えているところに生息し、千葉県内でも見られます。葉を細く裂いて編み込み、10ｃmくらいのボール状の巣を作り、その中で休んだり子どもを育てたりします。体長約５ｃｍ、尾は約８～９ｃｍ、体重は７～８ｇほど。長いしっぽを草に巻きつけてバランスをとりながら上手に移動します。

当園では子ども動物園の飼育センターで展示しています。とても臆病なのですぐに隠れてしまいますが、少しの間、そっと見守ってみてください。かわいい姿を見せてくれるかもしれません。



開発などにより生息地が減り、生息数が減ってしまったため、自治体によっては絶滅危惧種に指定するなど、保護活動がすすんでいます。

## ③何羽見つけられるかな？
## ― バードホールの鳥たち ―

ヒゲゴシキドリ

バードホールでは全長約 13cm のゴシキヒワから約 82cm のカンムリバトまで大小さまざまな鳥 14 種 23 羽（２月末現在）が飼育されています。エサは野菜、果物、ミルワーム、各種鳥類ペレットなどで、ホールの手前や奥の約 15 か所にエサ場があります。

うっそうとした熱帯の木々の中の鳥を見つけるのはなかなかむずかしいですが、日本の動物園では当園でしか見られないカンムリバトやアカミミコンゴウインコの他、人気のオニオオハシや羽ばたく時の翼の赤色が美しいリビングストンエボシドリ、日本のウグイスと全く違う姿のコウライウグイスなど、よく探すといろいろな姿かたちの鳥を楽しめます。動物科学館の受付で双眼鏡の貸出しを行っていますので、何種類の鳥を見つけられるか挑戦してみてください。

## ④木の上で暮らすのにちょうどいい体
## ― オランウータン ―

東南アジアのボルネオ島とスマトラ島の森林に生息するオランウータンは、一生のほぼすべてを木の上で過ごし、地上を歩くことはめったにありません。ですから、足も手と同じように指が長く、骨自体が内側に湾曲して枝を握りやすい形になっています。木にぶら下がって移動するため、腕が長く、４本の指も長くて太いわりに親指は小さいです。動物科学館の２階に骨格標本がありますから、人の体とのちがいを見くらべてみてください。手足の黒いツメは人のツメと同じく伸びますが、自然にすり減ります。オスはメスの２倍くらいの体格で、強いオスはおとなになると顔のまわりにほほひだができます。顔の大きいオスは、男らしいということですね。

### ⑤ドジョウを追って水中をダッシュ

## ― コツメカワウソ ―

インドや東南アジアの水辺にすむ小型のカワウソで、名前のとおり前足・後足とも爪が小さく、人間の手と似ていますが、指の半分ぐらいまで水かきがついています。野生ではカニや魚などを食べるので、かたい殻や骨をかみくだきやすいように鋭い歯があります。

当園ではエサとして小アジ・ワカサギ・ペットフードのほか、13 時 20 分頃から生きたドジョウを与えています。水の中をすばやく泳ぎ回り、ドジョウを前足でかきこむようにして口にくわえる姿が間近で見られるので、爪や水かきや歯がどうなっているか観察してみてください。水から上がった後、体を乾かすために木に体をこすりつける姿も愉快です。

暖かい地方の動物ですが、冬でも泳いで体調を崩すことはないそうです。夜は寝床の麻袋にみんなで身を寄せ合って眠ります。

### ⑥サルの仲間で一番速い

## ― パタスザル ―

パタスザルはアフリカのサバンナや半砂漠地帯で一夫多妻の 10～30 頭の群れを作り、木の上で休息する時以外は地上で活動します。きびしい環境で食べ物を求め広い範囲を移動する姿はまるで軍隊の行進のように見えることから、軍隊ザルとも呼ばれています。

頭から背中にかけての美しいレンガ色の毛並に、黒い鼻筋、白い口ひげで周囲を見張るオスのコウスケ（15 歳）には、群れを守る隊長の風格が感じられます。メスは体が小さくオスの半分位で、ここにいる２頭のメスはコウスケの娘たち(5 歳と４歳）です。

野生では肉食獣から身を守るために、すらりと長い手足で時速 50km 以上で走ることもできる霊長類一の駿足の持ち主です。

★ボランティアが毎月第２、第４日曜にご家族で参加できるクイズ形式の動物ガイドをしています。当日園内放送でお知らせしますので、ふるってご参加ください。

★それぞれの動物が見られる場所は下の地図をご覧ください。

### ⑦アフリカのそうじ屋さん

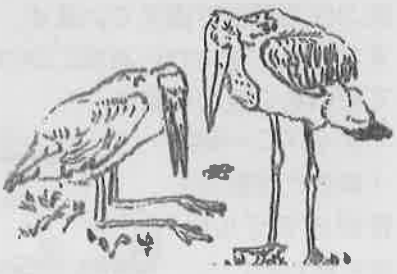
## ― アフリカハゲコウ ―

アフリカのサハラ砂漠から南に生息するアフリカハゲコウ。外見からハゲワシやハゲタカの仲間と思われがちですが、実はコウノトリの仲間です。全長は 130 ｃｍ近くあり、つばさを広げると 250ｃｍほどになる大きな鳥で、湿地などを歩きまわって動物の腐肉を好んで食べます。

ほとんど鳴かず、「クラッタリング」と言ってクチバシをカタカタ鳴らしてコミュニケーションをとります。元来、足は黒から灰褐色ですがフンが付いて白く固まっています。これは熱の吸収をおさえて体温を維持するためだと考えられています。

当園の２羽は 2008 年に来園。エサは魚と鶏肉です。オスとメスは外見的なちがいはありませんが体の大きい方がオスです。

見た目は美しい鳥ではありませんが、腐肉を始末することで人や野生動物の衛生環境を浄化する役割を果たしています。



第２５号（2016 年）
編集・発行　千葉市動物公園ボランティア

# 千葉市動物公園の見どころ7＋（セブンプラス）

ライオン特集

1985 年の開園以来大型肉食動物はいなかった当園に、２年間の準備期間を経て、今春２頭のアフリカライオンがやってきました。名前はトウヤとアレン。それぞれ個性のちがう２頭をご紹介します。かわいがって下さいね。

## ―トウヤ―

トウヤはオスの５歳です。多摩動物公園で生まれ育ってきました。現在のところ体高は約 1.3 メートル、体長は約２メートル余り、体重は約 200 キログラムです。人に育てられたアレンとちがい、トウヤはライオンの両親に育てられたため野性味があり、荒々しい中にも慎重な性格がうかがえるとのこと。仲間のライオンたちのあいだで揉まれたせいか、顔には傷あとがあり、しっぽの先は切れています。飼育係さんによると、吠える低い声は大きな和太鼓をたたく音のようにおなかに響くそうです。

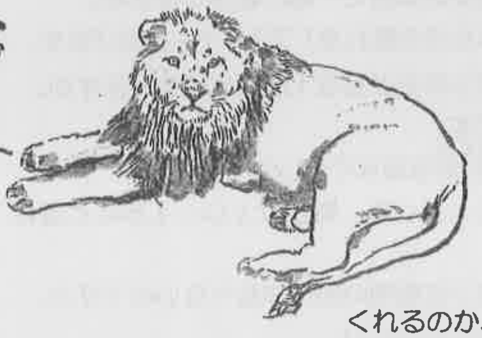
毎日のエサは馬肉 3.5 kgと鶏肉 2.5 kgが与えられていますが週に２回（水曜、土曜）は絶食日となります。野生では毎日定期的に食事をとっているわけではなく、食べない日もあるので、動物公園でも健康管理のために食べない日をもうけています。

金色のたてがみが美しく、食べるのが大好きな食いしん坊のトウヤ。ガラス越しに観察のできる展示場と、アフリカの平原をイメージした屋外展示場の両方から観察してください。

## ―アレン―

オスライオンのアレンは 2013 年5月9日、湘南動物プロダクションで生まれ、まもなく群馬サファリパークへ。しばらくは赤ちゃんライオンとして来園者とのふれあい担当を務めていたそうです。その後、３頭の同世代のオスライオンたちと一緒に暮らしていましたが、このたび千葉市動物公園へやってきました。

一般にオスのライオンは、５、６歳で一人前のおとなになるそうです。もうすぐ３歳になるアレン。まだ顔はあどけなく、トウヤほどの落ち着きはありません。トウヤに比べて、からだも少し小さく、エサの量も少なめです。たてがみもまだ短めですが、アレンのおなかには、こげ茶色のフサフサとした長い毛が…。胸毛ならぬ「腹毛」？まだまだ子どもっぽさの残るアレンですが、今後どんなオスライオンに成長してくれるのか、楽しみですね。



人の手で育てられたため、とても人なつこく甘えん坊で、物おじしない性格のアレン。ツイッターで評判になった、おなかを見せてゴロゴロする姿を、ガラス越しに間近で見られるかもしれません。

### 前の動物園でそれぞれの世話をしてきた飼育係さんにききました

**多摩動物公園　トウヤ担当者さん**

**★名前の由来**：2010 年生まれのため「１０」にちなみトウヤと名付けました。同腹のメスのきょうだいも「ト」がつく名前にしました。

**★性格上の特徴**：温厚、おだやか。仲の良い相手には甘えるような仕草をみせることもありました。

**★思い出に残るエピソード**：「ごはんくん」と呼ばれていました。ライオンバスのお肉目当てにバスを追いかけて行くこともありました。太りすぎて高台にジャンプして登れない時がありました。

**★トウヤへのはなむけの言葉**：元気で頑張ってください。

**群馬サファリパーク　アレン担当者さん**

**★名前の由来**：週刊少年ジャンプで連載されていたマンガ「Dグレイマン」の主人公の名前

**★性格上の特徴**：普段は人なつこくて甘えん坊、近づくと真っ先に寄ってくるが、エサを食べている時はすぐ（ライオンだけど）豹変して、「エサの所に近づいて来るな！」という態度を示す。

**★思い出に残るエピソード**：群馬サファリに来た生後２か月頃はやんちゃで、一緒に来た兄弟と仲良く遊び回りとにかく元気だったのが印象的です。

**★アレンへのはなむけの言葉**：今までとはまったくと言っていいほどちがう環境や新しい担当者さんに慣れるまで、少し時間がかかるとは思いますが、持ち前のやんちゃなガキ大将ぶりを発揮して立派な大人のライオンに成長してください。

## 当園の飼育担当者の話

髙橋宏之さん「ライオンは大型肉食動物なので、基本的なことですが、カギの確認をしっかりして逃げ出すことのないように十分気をつけます。目標は、アレン、トウヤの２頭が快適に過ごせる環境を整え、肉体的にも精神的にも健康に過ごしてもらえるようにすることです。それには、毎日２頭をよく観察して、物言わぬライオンたちの要求をとらえ、彼らに応えていけるように努力します。その結果、健やかな毎日を過ごしているライオンをたくさんの方々にご覧いただき、心豊かに動物園での一日を過ごしていただけたら何よりに思います。」

佐藤安優美さん「はじめての大型肉食獣の飼育管理なので、ケガなく健康に！を第一に千葉市動物公園の色を出したライオン展示をしていきたいです。飼育して気づいたライオンの小ネタをお話ししつつ新しい千葉市動物公園の仲間をもっと好きになってもらえるよう頑張りたいです。」

## もっと知りたい！　ライオン　15の質問

1．ライオンにはどんな種類があり、それぞれ世界中で何頭ぐらいいますか。

アフリカライオンとインドライオンの２種類。アフリカライオンは野生で推定2万～4万頭、インドライオンは野生で約３５０頭と言われています。（ＩＵＣＮより）

2．野生のライオンは家族で一緒に暮らしますか。

家族で群れを作りその群れを「プライド」と呼びます。

3．メスのライオンは子どもを１度に何頭生みますか。

平均2～3頭です。

4．ライオンの寿命は何年くらいですか。

飼育下では１５～２０年、野生は１０～１５年と言われています。

5．野生のライオンは動物の肉しか食べないのですか。くだものや草は食べませんか。

基本的には肉ですが体調のすぐれない時は野草を食べることもあります。

6．ライオンには、みんなタテガミがありますか。

おとなのオスにのみタテガミが生えます。

メスライオンにはタテガミはなく、こどもにはうすく斑点があることがあります。（当園にはいません）

7．ライオンの仲間の動物はほかに何がいますか。

ライオンはネコ科の動物です。大きくとらえればトラやチーター、ヒョウなどが仲間です。

8．走る速さはチーターとくらべるとどうですか。

ライオンが走る速さは約６０km/時と言われています。チーターは約９０km/時ですから、チーターのスピードには負けます。

9．ライオンは木などの高い所に登りますか。

登れます。飛び降りるのは苦手のようでゆっくり慎重に降りてきます。

10．ライオンはネコのように、爪を出し入れしますか。

爪を出し入れすることができます。爪とぎもします。

11．ネコのように、気持ちいいとのどをゴロゴロ鳴らしますか。

のどは鳴らしません。ほえることができる大型ネコ科動物はのどを鳴らさないと言われています。

12．うれしいとシッポを振りますか。

シッポの動きと感情は関係していません。緊張しているときはぴんとのばしているようです。シッポは体についた虫を払うのに使ったり、こどものライオンをあやすのに使うと言われています。

13．ライオンは泳げますか。

川を渡らないといけない時だけ渡ることがありますが、ライオンの生息している地域の川にはワニがいておそわれることがあるので、川の近くにいるときには慎重に行動しています。基本的に濡れるのは好きではないようです。

14．「百獣の王」と呼ばれていますが、天敵はいないのですか。怖いものや苦手なものはありませんか。

天敵はいませんが、危険な目にあうことはあります。たとえば、野生ではダチョウに蹴られてケガをすることもあるらしいですし、こどものライオンはハイエナにおそわれることもあります。

15．ライオンは絶滅危惧種ですか。

アフリカライオンは、ある調査によると過去 21 年間でその数が 43%へったとされ、今後もへっていくことが予想されるので絶滅危惧種と考えられています。減少の理由は、人間にとっては家畜や人をおそう害獣であるために駆除されてしまうことや、生息できる環境がへっていることなど、さまざまです。インドライオンは全部で数百頭しかいない希少動物ですが、保護されてそれなりに安定した状態のようです。